

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

共立女子大学・共立女子短期大学
2024 年度入試 2 月 5 日

国 語

注意事項

1. この問題冊子は 23 ページあります。

大問	科目	ページ	選択方法	
一	現代文	1～8	必答問題	
二	現代文	9～17	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。
三	古文	18～23	選択問題	

- 2. 万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
- 3. 解答用紙は記述式解答用紙とマークシート解答用紙があります。問題文の指示に従って解答すること。
- 4. 解答用紙には座席番号・氏名を必ず記入すること。
- 5. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 6. 選択問題は出願時に登録した問題を解答すること。登録以外の問題を解答した場合は無効となります。
- 7. マークシート解答用紙の記入に当たっては、HB の鉛筆またはマークシートペンを使用すること。(シャープペンシルは不可)
- 8. マークシート解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから解答すること。
- 9. マークシート解答用紙の解答欄については、例えば、

10

と表示のある問に対して㉔と解答する場合は、次の(例)のように、10 の解答欄の㉔にマークしなさい。

(例)

解 答 欄	
10	㉔(イ)●(エ)㉕(カ)

10. 試験終了後、試験問題は持ち帰ること。

国語

大問	科目	選択方法	
一	現代文	必答問題	
二	現代文	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。
三	古文	選択問題	

今、なぜ消費社会について考えなければならぬのだろうか。

その答えは、まずは自明にみえる。私たちは日々、消費を積み重ねながら暮らしている。本を買い、レストランに行き、マンションをかうといった直接的な消費だけではない。水道の蛇口をひねり、灯り^{あか}をつけるといった本当は料金が発生していることがあまり意識されない消費もある。さらにはテレビをみて、ネットを利用するといった「広告」や「課金」などのかたちで他の誰かがおこなう支払いに便乗した間接的な「消費」も含めれば、私たちが購買活動にかかわらない日はないといっても過言ではない。

こうして当たり前のようにくりかえされている消費、またそれが積み重ねられることでつくられた消費社会に対して、ただし近年では批判が手厳しい。

ひとつに消費社会が非難されるのは、それが所得の「格差」と深くかかわり成立していると考えられているからである。ある商品を買える者もいれば、買えない者もいる。それを決めるのはたしかに保有する金銭の量なのだが、消費社会はそうした貨幣所持にかかわる「格差」を前提に維持され、またその拡大を^アジョウチヨウしている^アと疑われている。

そしてだからこそ消費、また消費社会は批判される。格差をできるだけ減らし、消費にかかわる「不公平」が生じないようにするために、福祉国家を拡大し育児や教育などの基礎的なサービスを充実させることや、究極的には「平等」な配分を実現するための^(注1)コミュニティが唱えられる。消費社会は所得の「格差」を前提として成り立つ社会とみなされ、そのためにそうした社会、あるいはそれを支える資本主義を変革することが目指されているのである。

とはいえ社会体制そのものを変えることは、相当に困難にちがいない。だからこそ代わりに、個人のできる範囲で消費のやり方を変えることを説く者も多い。この場合、他人の目を意識した「不必要」な(とみられる)消費を減らし、自分に似合った、本当に良いとされるモノ、さらには具体的な形を取らない経験にお金を費やすことが大切であると自己啓発的に説かれていくのである。

たとえば三浦展^{あつし}はモノの真の価値や人との関係を重視した消費を「第四の消費」として持ち上げている。ブランド品ではない、一見質素だがつくり手のみえる食器や服を買い、旅行や音楽鑑賞などの体験を楽しむこと。通俗的にはたんなるモノから、体験や込められた思いを重視したコトへの価値観の転換と主張されるこうした消費は、金銭的または時間的コストがむしろ大きいという意味で、社会における「格差」そのものを減らすことはたしかにできない。だがだとしても「格差」に基づくみせびらかしの行為から購買活動が切り離されているようにみせかけることはできる。

X

それによって消費を罪深い資本主義的な活動から免責することが試みられているのである。

他方、「格差」に基づくことだけではなく、消費や消費社会が環境を破壊していることも近年では強く非難されている。大量生産された商品を次々と消費する営みが環境にとって負荷が多いことは、たしかに誰にも否定しようがない。とくにかつて後進国とされた国が続々と大量生産・大量消費に加わるなかで、二酸化炭素排出増加に伴う温暖化の危険はますます切迫していることは否定できないのである。

だからこそ消費社会を超える道がモサク^イされている。ひとつ目はこの場合も個人的に対処する道で、環境負荷の高い商品を選び、環境に優しい(とされる)商品を買うことが勧められる。「エシカルな消費^(注2)」や「エコ消費」と呼ばれるこうした消費はハイブリッド車の購入やエコバックの使用などのかたちで、たしかに一定の市民権を今では獲得している。

他方、よりラディカルに社会の構造そのものをつくりかえる道もある。膨大な消費がくりかえされることで成り立つ現在の経済構造と、地球環境保護ははたして両立できるのだろうか。^②それを可能とみる者もいる。国の積極的な働きかけによって、技術革新を促し、さらに生産そして消費にたいする規制を強化することで、経済発展と地球環境の維持を両立できると楽観視されているのである。

それとは別に、より根本的に社会構造を根底からつくりなおさなければならぬとみる者もいる。この場合、消費社会、ひいてはそれを生み出した資本主義そのものの乗り越えが主張される。斎藤幸平の『人新世の「資本論」』がその典型である。地球環境を保護するために、資本主義を変えなければならぬとされ、そのための手段として、先に格差のテッパイ^ウの際に夢みられてい

たのと同様に、コミュニティに期待が寄せられているのである。

③ こうして現在、消費社会の乗り越えがさかんに唱えられている。バブルの膨張がみられた一九九〇年代初めまでは、消費社会はあらたな社会の到来を告げるポジティブな現象として語られることが多かった。だが二〇〇〇年代には「格差社会論」が流行し、さらにその後、地球環境危機が切迫することで、消費社会は乗り越えるべき諸悪の根源として非難されるようになったのである。

こうした事実把握そのものには、たしかに傾聴すべきところがある。実際、格差の拡大と地球環境への損害が、現代社会の大きな問題であることは否定しがたい。現在あきらかになつているところによれば、いつそう多くの消費を促す資本主義が、貧富の差を拡大し、地球環境に多大なダメージを与えていることは、事実として認めるしかないのである。

④ しかしだからといって、消費社会を諸悪の根源とすぐに^エタラクしてはならない。その理由は大きく分けて二つある。

ひとつ目の理由は人びとが事実上、消費社会をなお日々選択し、受け入れ続けていることである。消費社会に対する批判が高まつてからすでにそれなりの月日が過ぎていく。だが多くの人びとが消費することに飽き、興味を失っているようには到底みえない。消費に費やされる金額はたしかに不況のなかで減ったともいえるが、その一方でデフレが進むことでそれに対応した購買活動も活発化したのである。

もちろん一方でいまではエシカル消費の流行の波に乗り、エコであることをうたう洗剤や食品も増加している。ただしこうした変化が、消費社会を全体として変えたかどうかについては疑問が残る。たとえばエコな商品の購買は、さらなる消費のためのアリバイとなることがある。ハイブリッド車や電気自動車をあらたに製造すると、ガソリン車に乗り続けるよりもエネルギーがかかるだけではなく、それを買って安心してより多く乗り始めることで二酸化炭素の排出量を大きくする場合があることさえ確かめられているのである。

効果が不確かであるにもかかわらず、次々と異なる対象がもてはやされるといふ意味では、むしろこうした乗り越えの試みそのものが消費社会の^{ファッション}流行であった可能性が高い。環境に優しい商品だけではなく、「ロハス」^(注3)や「シェア」、「ていねいな暮らし」

や「ミニマリスト」的暮らしなどあらたなブームが起こり、新規な消費の対象が紹介されてきた。しかし社会総体を変える気配もないままに、それらはあらたに現れるブームに取って代わられていく。その意味でそうしたブームは他の人に自分の道徳的、感性的「正しさ」をみせびらかすモードとして、消費社会を延命することに仕えてきたのではないかという疑いが合理的に残るのである。

こうしてある種の論者の非難にかかわらず消費社会が人びとに受け入れられてきたという事実上の問題だけではなく、消費社会を超えるという提案が望ましい社会を約束しているのかという権利上の問題もある。消費社会に対する批判は、人びとが同じような道徳的関心を持ち、平等に暮らしている未来を描いてみせる。しかしそうした社会が消費社会以上に本当に望ましいものであるのかどうかについては、慎重に吟味しておかなければならないのである。

実際、本書は、消費社会がその根本において実現している多様性や自由をあくまで大切なものと考え。金を持つかぎりにおいて、私たちはこの社会において自分が望むものを何であれ、好きに買うことが認められている。消費が約束するこうした具体的な自由を過小評価してはならない。それはひとつにそれが、この社会では多様性の根拠になっているからである。酒を飲んだり賭けごとをするなど、たとえ愚かなことと他人から判断されようと、自分の望みをこの社会で私たちは押し通すことができ、それをもとに私たちは「私」自身であることが具体的に許されている。

Y 消費社会を乗り越えようと吹聴する企ては、こうした自由や多様性の大切さについて十分な配慮を払ってこなかった。平等や環境保護を実現するためには、多かれ少なかれ国家による規制や強制が避けられないが、それが消費社会で空気のようにキョウジユオされている自由や多様性を損なう危険性についてはあまり真剣に考慮されてこなかったのである。

もちろん、経済的な公平性や環境的な持続可能性を無視してよいと本書は説くのではない。逆にそれはきわめて大きな問題として論じられるが、だからこそ大切になるのは、そうした問題と消費社会で経験される自由と多様性をいかに折り合いをつけていくのかという課題である。私たちが気に入ったところに暮らし、好きな料理を食べ、趣味の娯楽を楽しむことは、一定の論者からみれば、たいした意味のない身勝手なふるまいに映るのかもしれない。しかしそうしたささやかな楽しみこそ、日常を生き

ていく上での誇りや尊厳を支える重要な核になっている。そもそも私たちはそうした自由を前提として消費社会の是非^⑤について論じることさえできているのであり、それを無視して、現在の、または未来の社会について考えることのほうがむしろ危険なのである。

(貞包英之『消費社会を問いなおす』)

問題の作成上、文章の一部を省略しています。

(注1) コミュニズム……共産主義。財産の私有を否定し、生産手段・生産物などすべての財産を共有することによって貧富の差のない社会を実現しようとする思想・運動。

(注2) エシカルな消費……倫理的な消費。消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

(注3) ロハス……LOHAS。Lifestyles of Health and Sustainability(健康的で持続可能な生活様式)の略。

(注4) ミニマリスト……持ち物をできるだけ減らし、必要最小限の物だけで暮らす人。

問一 波線部ア～オのカタカナを漢字で書きなさい。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問二 空欄 、 に入ることばとしてもっとも適切なものを次のア～カから一つずつ選んで記号をマークしな

さい。解答番号はX 、Y 。

- ア さらに イ けれども ウ ただし エ つまり オ ところで カ たとえば

問三 傍線部①「三浦展はモノの真の価値や人との関係を重視した消費を『第四の消費』として持ち上げている」とあるが、それはなぜか。その説明としてもつとも適切なものを次のア～エから一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 3。

ア たんなるモノの消費から、体験や込められた思いを重視したコトの消費へ価値観を転換することで、格差の縮小が期待できるから。

イ 他人の目を意識した「不必要」な消費を減らし、具体的な形を取らない経験にお金を費やすことが、格差を減らすことにつながるから。

ウ 消費社会そのものを変える代わりに、個人の消費のやり方を変えることで、購買活動と格差の関係を見えにくくすることができから。

エ 個人の消費方法を変えることで、金銭的、時間的コストは大きくなるが、消費社会の背景にある格差意識を減らすことができるから。

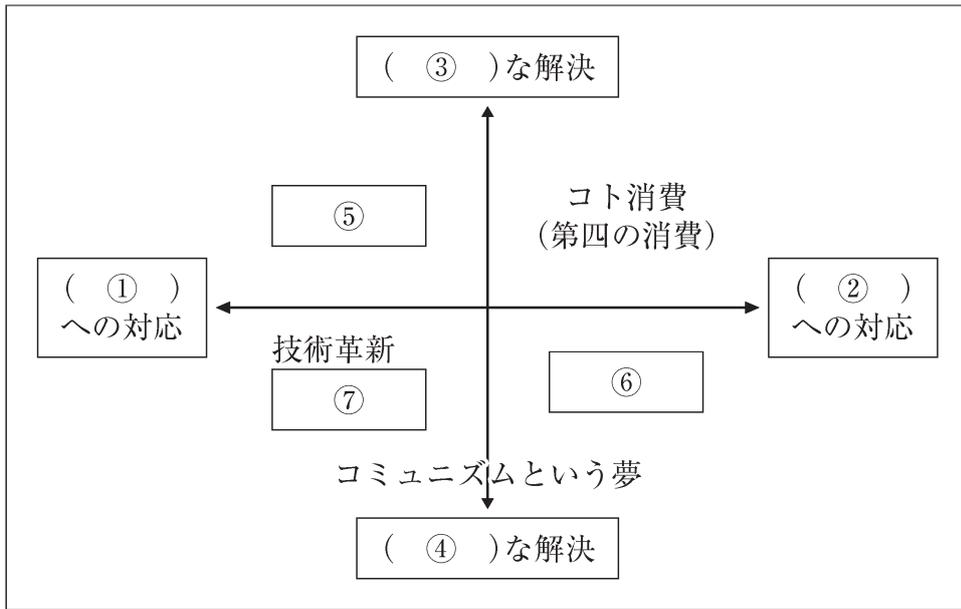
問四 傍線部②「それ」がさす内容を文中のことばを用いて二十字以内で書きなさい。ただし、読点も一字に数えるものとする。

解答は記述式解答用紙に記入すること。

問五 傍線部③「消費社会の乗り越え」について、本文で述べられている内容は次の図のようにまとめられる。図の空欄①～⑦に

入れるのにもっとも適切な語句を次のア～コから一つずつ選んで記号をマークしなさい。解答番号は① ②

5、 ③、 6、 ④、 7、 ⑤、 8、 ⑥、 9、 ⑦、 10。



- ア 個人的
- イ 集団的
- ウ 格差
- エ 環境問題
- オ 福祉社会の強化
- カ 道徳的な正しさ
- キ エシカルな消費
- ク 自由と多様性
- ケ 誇りや尊厳
- コ 規制の強化

問六 傍線部④「ひとつ目の理由は人びとが事実上、消費社会をなお日々選択し、受け入れ続けていることである」とあるが、消費社会を諸悪の根源とすべきではない二つ目の理由は何か。もっとも適切なものを次の①～⑤から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 11。

- ① 新しい技術や製品の開発によって、消費社会を持続させる、環境に配慮した消費活動が可能であるから。
- ② 消費社会を支えているひとりひとりの消費活動は、社会の多様性や自由の根拠になっているから。
- ③ 消費社会を超えるという提案が、必ずしも格差のない平等な社会を約束しているわけではないから。
- ④ 消費社会における多様性や自由は、平等や環境保護を実現するための規制や強制よりも重要だから。

問七 傍線部⑤「是非」と同じ熟語の構造を持っている語を次の①～④から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 12。

- ① 不況 ② 強化 ③ 温暖 ④ 育児
- ⑤ 貧富 ⑥ 重視

問八 次の①～④の中で、本文の内容と合っているものには①～④をマークしなさい。解答番号は 13、14、15、16。

- ① 環境にやさしい消費を続けることは、消費社会の構造そのものをつくりかえることに役立つ。
- ② 消費社会は、乗り越えるべき諸悪の根源として従来から非難されつづけていたわけではない。
- ③ 「ロハス」や「シェア」といったブームは、消費社会を持続させる役割を担っていたということができる。
- ④ 規制や強制のしかたによっては、格差と環境に配慮した、自由で多様性のある社会を実現することができる。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題) 二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(解答番号は ～)

ありとあらゆる生物の根本原理は「生き延びようとするためのシステム」であるという前提があります。生物の目的は、「生き延びること」と「子孫を残すこと」。これは、 であるといつてよいくらいのもので、正しいことをするかどうかわり、まずは種が生き延びることが重要です。

人間の脳の中を見ても、「正しい／正しくない」を絶対的な基準で判定するような領域は今のところ見つかっていません。ただ、相対的に「正しい／正しくない」を判断する領域はあります。「相対的」というのは何かと比べて判断するということから、他のものとの関係や比較する対象によって価値も変わっていくということです。

① どうして基準が相対的にできており、それが、集団内にある人々の持つ感覚を鋭敏に反映する形で、頻繁に変わるといふ仕組みになっているのでしょうか。相対的であることのメリットは、次のようなことであろうと考えられます。

そもそも、私たちの脳のサイズ及び機能では、 して、各々の意思に基づいて合理的に意志決定していくには、力があまりにも不足しています。

そういった条件のもとで、集団内の協力構造をより強固にする必要があるのですが、このとき、基準が固定されていると、それに合わせることは楽に(よりコストが低く)なるものの、^(注1)悪意のあるプレイヤーがその基準をハックして、集団を丸ごと操作しやすくなってしまいます。

② 誰か一人のプレデター(捕食者)に集団を乗っ取られるリスクを回避するためには、一定の周期で基準が変更される必要があるというようになります。

このように、人間の脳というのは相対的に物事の正しさを判断するように仕組みられています。一方、変わりにくい基準という

のは、正しい／正しくないの判断とは別になります。

それは「快」や「不快」などの主観的な好みです。

たとえば、肉を食べたら美味^{おい}しいと感じる人は多いでしょう。

もちろん、どんな食べ物でもそれが苦手な人はいますし、家庭の方針や宗教上の理由などによっては肉を食べると気持ち悪く感じるような人もいるかもしれません。藤子不二雄^ア先生は、禅宗のお寺に生まれ、肉を一切摂^とらない食生活を子どもの頃から送ってこられました。大人になって初めて肉を食べたときに体調を崩してしまわれたとのことでした。こうした珍しい方でもないではないのですが、ただ、基本的には人間は雑食性なので、タンパク質の豊富な肉類を美味しいと感じる人がそう少なくはないはずです。

さらに、タンパク質というのはアミノ酸がたくさん複合してできたものですが、このアミノ酸以外で多くの人間に共通する好物といえば、塩と脂肪とブドウ糖(砂糖)です。

たとえば、ポテトチップスやフライドチキン、ドーナツなどは世界中で大人気です。それらを食べていれば人間の生命は身体的には維持できるので、なるべくそれらを積極的に摂取させるよう、脳が仕向けているわけです。

西洋的な価値観では「真実」というものが非常に大切であるという見方があります。

しかし、実際に人間の脳をのぞいてみると、この真実を見分ける領域というものは無いのです。少なくとも今のところは見つかってはいません。たとえば、人間には正確に気温や水温を測る能力や、色を正しく識別する機能などはありませんよね。それは、人間が生き延びていく上ではその必要がなかったからだと考えられます。

それよりも私たちにとって有用だったのは、「急に風が冷たくなってきた」とか「いつもより水温が高い」、あるいは「この実は他の実と比べて青い」というように、他と比べて大まかに状況を把握する能力です。

③このように、美味^{おい}しいか美味しくないかといった主観的な判断基準はもともと人間の脳に備わっているのに、絶対的な正しさや真実を判別する機能は脳に埋め込まれていない。これは一体何を意味しているのでしょうか。適応(生存していく上で条件と

なる環境の状態に合ったやり方)としては、「正しさ」には意味がないと考えるのが自然です。

少なくとも、生物が生き延びていく上では、C な正しさや真実が最重要項目でないということは、皆さんの周囲を見渡しても十分わかることではないでしょうか。

でも、多くの人には絶対的な正しさを求めたいという気持ちがあります。確かに、真であることは美しく、望ましいことでしょう。けれども、「そうであってほしい」ということと、「そうである」ことを混同するのは科学ではありません。というより、許されないことです。

では、なぜ絶対的な正しさを好ましく、美しいと思う人が多いのでしょうか。

それは、こんなことを言ったら怒る方もいるかもしれませんが、脳は、自分で何かを決めることがあまり得意ではなく、しかも、いつも楽をしたがっています。相対的に物事を評価するという性質を持つ脳は、まず周囲の情報を集めて、当座の基準を設定し、そこと比較して物の価値を決めようとしています。ふだん、何気なくやっていることではありませんが、その計算量はかなりのものです。

けれども、絶対的に正しいものはつきりしているなら、それに従えばいいということになり、圧倒的に計算量を抑えることができるのです。人生でも、「人はこう生きるべきだ」という正邪の基準が決まっていれば、いちいち深く考えずにそれに従って行動していればよく、体感としても軽く感じられると思います。

多くの宗教の価値観では、その信仰における教義が絶対で、よほどのことがなければ、それに対して疑問を持つたり否定することを前提に議論したりすることは想定されていません。そもそも信仰というからには、信ずることが条件として設定されている思考の枠組みであるので、それを疑えば世界すべてをゼロから捉え直すなくてはならないことになります。

人間には「正しい／正しくない」を判断する絶対的な機能が組み込まれていないからこそ、外から認識上のもんとして与える形で宗教や神様のような存在が必要だった、という考え方ができるといえることです。

パソコンでたとえば、インストールやアップデートが可能なOS(オペレーティングシステム)のように、外側から与えられ

るソフトウェア的な制御装置として、正邪を所与のものとして扱うような宗教が、多くの集団に求められたのではないかと思うのです。

⑤でも、近年のマスメディアの発達、また個人の情報発信手段の進歩によって、宗教が絶対的な権威だった時代が半ば強制的に崩壊させられてきました。

X、今でも一定数の方が世界中でさまざまな宗教を信じています。

一方で、矛盾するようではありますが、多くの信仰者たちでさえ、教義よりも、科学的事実の方が優先されるということを受け入れているという現実もあります。

そして科学の世界では、どんな人でも反論をして、そのことが確かなのか実験する権利があるのです。これを「反証可能性」といいますが、誰でも気の済むまで検証することが許されているということです。

Y、科学は、神の存在を、どんなに疑り深い人に対しても示すことができると始まったものなのです。

そうやって、批判的に物事を問うてみる姿勢からこそ「信」が生まれるのであって、預言者（神の行いや考えを伝えるとされる人。予言者ではない）や教祖の言ったことをそのまますべて信じるのとは本来は性質がまったく違うものだったのです。ただし、これは一部のD階層のしてきたことで、一般的な人々が必ずしも全員、そうした前提で信仰をしてきたということではありません。

話を戻しますが、信仰のことについては宗教学者をさしおいて私が言える内容は少ないのですが、少なくとも2つの側面があります。喫緊の願い（病気を治してほしい、試験に合格したい、などの願い）を叶えてもらいたいと祈る、という姿勢と、神ないしは大きな誓願のために自分の人生を捧げたい、というものです。これらはずいぶん違うものです。科学はこのうち、後者から派生したものと考えられますが、いつのまにか前者の願いを叶えるものとして使われるようになったのは興味深いことです。

話が逸れましたが、反証可能性がある、ということは、科学の世界では、たとえば10年も経てば一つの科学的事実に対して反証が出てきて、それまでの「常識」もひっくり返される可能性があるということです。

実際に『ネイチャー』など権威があるとされている科学誌に掲載された研究報告でも、後に科学的事実とは言えないと判明した研究事例はたくさんあります。これまで正しいと信じられてきたものが、どこかの時点でガラリと変わってしまうことがあるのです。

ですから、近代では宗教に代わるものは科学だと思われるかもしれませんが、構造的には科学は絶対的な基準にはならないのです。もちろん、喫緊の願いを叶えるものとして、科学からさらに派生した技術的なことやライフハック的(注2)に使われる知見というのはあるのですが、これは信仰の誓願に代わるようなものではありません。

とはいえ、人間は基準を求めがちな生き物です。宗教でもない、科学でもないとなったら、これから人間はいったい何を基準にして生きていったらいいのでしょうか。

^⑥ 現代というのは基準そのものが定まらなくなったからこそ、バイアス(偏り)をめぐる状況はますます複雑になっているとも言えます。

(中野信子『バイアス社会』を生き延びる)

(注1) ハックして……ハッキングすること。他人のシステムを不正な手段で操作したり不正に機密情報を入手すること。

(注2) ライフハック……IT業界の用語。仕事の質や効率を高めるためのコツや技術のこと。また、業務目標設定や健康管理などの仕事術や生活術。

問一 空欄 A、B に入ることばとしてもっとも適切なものを次のア～キから一つずつ選び、記号で答えなさい。

い。解答番号は A 、B 。

- ア 断定 ① 判定 ⑤ 定義 ⑨ 意義 ⑬ 容認 ⑰ 確認 ㊦ 認知

問二 傍線部①「相対的であることのメリット」とあるが、その説明として、もっとも適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 19。

- ア 「正しい／正しくない」を絶対的な基準で判定することなく、相対化してしまえる。
- イ 他のものとの関係や比較する対象を相対化し、絶対的な基準の専横を許さない。
- ウ 私たちの脳のサイズ及び機能では力不足なため、絶対的な基準は維持できないための代用。
- エ 集団内の協力構造を強固にする上で、固定化した基準のように悪意のある者に乗っ取られる危険が少ない。

問三 傍線部②「一定の周期で基準が変更される必要がある」とあるが、それはなぜか。その理由として考えられる、もっとも適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 20。

- ア 一定の周期で基準が変更されないと、純粋な相対性を保てないから。
- イ 一定の周期で基準が変更されないと、相対的な基準を維持できないから。
- ウ 一定の周期で基準が変更されないと、基準が固定され相対性の意義が失われるから。
- エ 一定の周期で基準が変更されないと、相対的な価値基準が変わってしまうから。

問四 傍線部③「美味しいか美味しくないかといった主観的な判断基準はもともと人間の脳に備わっている」のはなぜか。考えられる理由として、もっとも適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 21。

- ⑦ 「快」や「不快」などの主観的な好みを決定的しておくことで、人間に生命の維持を図らせるため。
- ⑧ 「快」や「不快」などの主観的な好みをも、固定した絶対的な価値基準よりも優先させるため。
- ⑨ 「快」や「不快」などの主観的な好みが多様であることで、食べものを摂取しやすくなるから。
- ⑩ 「快」や「不快」などの主観的な好みが決められていることで、食べる意義が生まれるから。

問五 空欄 C、D に入ることばとしても適切なものを次のア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- い。解答番号は C、D、22、D、23。
- ⑦ 良心的
 - ⑧ 社会的
 - ⑨ 倫理的
 - ⑩ 知的
 - ⑪ 個人的
 - ⑫ 共同体的

問六 傍線部④「なぜ絶対的な正しさを好ましく、美しいと思う人が多いのでしょうか」とあるが、その理由として、もっとも適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 24。

- ⑦ 人間の脳は、問題の相対化のための計量努力を投げ出して、絶対的な一つの基準の下で楽をしたがるから。
- ⑧ 人間の脳は、問題の相対化のための計量努力の代わりに、絶対的な基準を信じようと努力するから。
- ⑨ 人間の脳は、問題の相対化のための計量努力をせずに、代わりになる唯一絶対の基準を探そうとするから。
- ⑩ 人間の脳は、問題の相対化のための計量努力を怠らず、そこから絶対的な基準を見つけ出すから。

問七 傍線部⑤「近年のマスメディアの発達、また個人の情報発信手段の進歩によって、宗教が絶対的な權威だった時代が半ば強制的に崩壊させられてきました」とあるが、その理由として考えられる、もっとも適切なものを次の①～⑤から一つ選び、記号で答えなさい。解答番号は 25。

- ① マスメディアの発達や個人の情報発信手段の進歩は、宗教の根本である教義を、くつがえしていくものだから。
- ② マスメディアの発達や個人の情報発信手段の進歩は、宗教が呈示する絶対性に疑義を感じさせていくものだから。
- ③ マスメディアの発達や個人の情報発信手段の進歩は、宗教の根本である教義を、くつがえしていくものだから。
- ④ マスメディアの発達や個人の情報発信手段の進歩は、宗教の根本である教義を、くつがえしていくものだから。
- ⑤ マスメディアの発達や個人の情報発信手段の進歩は、宗教の根本である教義を、くつがえしていくものだから。

問八 空欄 X、Y に入ることばとしてもっとも適切なものを次の①～⑤から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- い。解答番号は X 26、Y 27。
- ① せいぜい
 - ② せいぜい
 - ③ さらに
 - ④ たとえば
 - ⑤ もちろん
 - ⑥ むしろ

問九 傍線部⑥に「現代というのは基準そのものが定まらなくなった」とある。次の文章は本当の「正しさ」が受け入れられない現実場面の理不尽さを著者が説明したものである。空欄 E、F に入ることはとしてみっとも適切なものを次のア～カから一つずつ選び、記号で答えなさい(ただし、EとFは別解答)。解答番号は E 28、F 29。

信じている人の数が多いとか、信じている人の側に権力や E があるという事情で、その場における普通感覚、つまり基準が変わっていくからです。ある種の球技ではボールを保持している側が常に入れ替わり、F が頻繁に変わるのと似ていて、現実世界でも今どこにボールがあつて、どんなふうプレーが進んでいるのかを見極めないといけないのです。

ア 裁決権

イ 裁量権

ウ 既得権

エ 選択権

オ 主導権

カ 任命権

問十 次の①～④の中で、本文の内容と合っているものにはア、そうでないものにはイで答えなさい。解答番号は① 30、

② 31、

③ 32、

④ 33。

① 人間の生存目的は「生き延びること」にあり、「正しさ」の判定などよりも最優先事項である。

② 美味しいものを食べたいという欲求が起こるのは、脳が生存「適応」のために楽をしようとするせいだ。

③ 科学は本来、喫緊の願望をかなえるためではなく、神の存在を批判的に検証するために生まれてきた。

④ 多くの宗教はその教義に絶対的価値を置くゆえに、現代では科学と同様に人々の信頼を失いつつある。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題) 三 次の文章は『栄花物語』の一節である。よく読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は 17)

このごろ聞けば、逢坂(注1)のあなたに、関寺といふ所に、牛仏現れたまひて、よろづの人詣り見たてまつる。

① 年ごろこの寺に、大きな御堂建てて、弥勒(注2)を造り据ゑたてまつりける。樽(注3)、えもいはぬ大木どもを、ただこの牛一つして運

びあぐることをしけり。あはれなる牛とのみ、御寺の聖思(注4)ひわたりけるほどに、寺のあたりに住む人借りて、明日使はんとて置きたりける夜の夢に、「われは迦葉(注5)仏なり。この寺の仏を造り、堂を建てさせ(注6)んとて、年ごろするにこそあれ。ただ人はいか

でか使ふべき。」と見たりければ、起きて、かうかう夢を見つると言ひて、拜み騒ぐなりけり。牛もさやにて黒くて、ささやかに(注7)をかしげにぞありける。繫がねど行き去ることもなく、例の牛の心ざまにも似ざりけり。入道殿をはじめたてまつりて、世の中

におはしける人、詣らぬなく詣りこみ、よろづの物をぞ奉りける。ただ帝、東宮、宮々ぞえおはしまさざりける。この牛仏、何となく心地悩ましげにおはしければ、疾(注8)くうせたまふべきとて、かく人詣りこみて、この聖は御影像をかかむとて急ぎけり。

かかるほどに、西の京にいと尊くおこなふ聖の夢に見えけり。「迦葉(注9)仏当人涅槃(注10)の段なり。智者(注11)当得結縁(注12)せよ」とぞ見えたりければ、いとど人々詣りこむほどに、歌よむ人もあり。和泉、

聞き(注13)しより牛に心をかけながらまだこそ越え(注14)ね逢坂の関人々あまた聞こゆれど、同じことなれば書かず。

日ごろ、この御かた書かせて、六月二日ぞ御眼入れんとしけるほどに、その日になりて、この御堂をこの牛見巡りありきて、もとの所に帰り来てやがて死にけり。これあはれにめでたきことなりかし。御かたに眼入れけるをりぞ果てたまひ(注15)にける。聖いみじく泣きて、やがてそこに埋みて、念仏して、七日七日に経仏供養しけり。後にこの書きし御かたを、内にも宮にも

拝ま^(e)せたまひける。かかることこそありけれ、まことの迦葉仏この同じ日ぞかくれたまひける。今はこの寺の弥勒供養せられたまふ。この聖もいそぎけり。草を誰も誰もとりて詣りけるなかに、詣らぬ人などぞありければ、それは罪深^(f)きにやなどぞ定めける。

〔栄花物語〕

(注1) 逢坂……逢坂山。近江と山城の国境の山で、近江国側に関寺^(せきでら)(本尊は弥勒菩薩^(ぼさつ))があった。

(注2) 牛仏……牛に姿を変えて現れた仏や菩薩のこと。

(注3) 樽……丸太。

(注4) 入道殿……藤原道長。

(注5) 影像……絵姿。

(注6) 当入涅槃の段……まさに入滅(仏が死ぬこと)しようとする時、の意。

(注7) 智者当得結縁……道心がある者はまさに仏道に入る縁を結ぶべきだ、の意。

(注8) 和泉……和泉式部。

問二 二重傍線部Ⅰ～Ⅲの解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次のア～エの中から選んで記号をマークしなさい。解答

番号はⅠ 、Ⅱ 、Ⅲ 。

Ⅰ ただ人はいかでか使ふべき。

- ア 多くの人はどうにかしてその牛を使役するはずである。
- イ 人間ならばどのようなようにその牛を使うだろうか。
- ウ 高貴な人はどうしてもその牛を利用することはできない。
- エ 普通の人はどうしてその牛を使役してよいだろうか。

Ⅱ よろづの物をぞ奉りける。

- ア 牛仏にいろいろな物を献上した。
- イ 聖にいろいろな物を献上した。
- ウ 牛仏からあらゆる物を授かった。
- エ 牛仏は貴重な物を召し上がった。

Ⅲ 心地悩ましげにおはしければ、

- ア 何となく思い悩んでおられたので、
- イ 心臓に病を得ていたので、
- ウ 体調が悪そうでしたので、
- エ 居心地が悪そうだったので、

問三 四角で囲った(a)～(f)の助動詞の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ次の㉑～㉕の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は(a) 、(b) 、(c) 、(d) 、(e) 、(f) 。

- ㉑ 打消 ㉒ 意志 ㉓ 断定 ㉔ 完了 ㉕ 尊敬
㉖ 受身 ㉗ 過去

問四 波線部「同じこと」とはどういうことか。解説としてもっとも適切なものを、次の㉑～㉕の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ㉑ 多くの人々が参詣したと聞いているが、牛仏を見た感動は皆同じであるということ。
㉒ 多くの人々の歌を伝え聞いているが、和泉の歌と似た趣であるということ。
㉓ 多くの人々が歌を詠んだが、参詣した折に詠む歌は決まっているということ。
㉔ 人々は和泉の歌をたくさん聞いたが、どれも似たような歌だったということ。

問五 問題文の内容と合致するものを、次の㉑～㉕の中から一つ選んで記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ㉑ 聖は、関寺の建築に一頭で懸命に働く牛のことを、殊勝だとずっと思っていた。
㉒ 道長や世間の多くの人々だけでなく、帝や東宮や宮たちまでも参詣した。
㉓ 牛の正体は迦葉仏で、多くの人々が仏の絵姿を書くために参詣した。
㉔ 牛の死期が近づいているのを知って、世間の人々は参詣するのを控えた。
㉕ 関寺の聖が牛の絵姿を完成させたあと、牛は死んで仏となることができた。

問六 次の文章の空欄 に入るもつとも適切な言葉を、それぞれ次の①～⑦の中から選んで記号をマークしなさい。解答番号は 、 、 。

『栄花物語』は、 物語というジャンルの作品で、作者としては、 があげられており、彼女は和泉式部や の作者であった紫式部などと同じく道長や中宮彰子に仕えた女房であった。

- ① 歌
② 歴史
③ 伝奇
④ 清少納言
⑤ 阿仏尼
⑥ 赤染衛門
⑦ 枕草子
⑧ 源氏物語
⑨ 蜻蛉日記